

2011年度プロジェクト科目秋学期科目追加募集のお知らせ

プロジェクト科目では、下記の秋学期科目について受講生を追加募集します。希望する学生は必ず登録志願票に必要事項を記入し、先行登録期間内に京田辺校地教務事務センターへ提出してください。

対象テーマ	受付期間	選考結果発表
京都伝統地場産業のイノベーションとキャリアを探るプロジェクト	2011年9月20日(火)～9月21日(水) 事務室開室時間	2011年9月22日(木)10:00

詳細は、下記プロジェクト科目ホームページおよび今出川・京田辺両校地の掲示板を参照してください。
シラバス・講義概要はWEBで検索できます。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
 テーマ一覧 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/theme/>
 ブログ <http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/> シラバス・講義概要検索 <http://syllabus.doshisha.ac.jp/>

2012年度プロジェクト科目公募のご案内

同志社大学は、従来の講義中心の授業形態とは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を基本とする、授業科目「プロジェクト科目」を2006年度から設置しています。この「プロジェクト科目」は、地域社会や企業の方々に講師をお願いし、地域社会と企業がもつ「教育力」を大学の正規の教育課程の中に導入することによって、学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、「現場に学ぶ」視点を育み、実践的な問題発見・解決能力など、いわば学生の総合的人間力を養成することを目的としています。教員が一方向的に知識を伝授する講義スタイルとは異なり、学生自身が構想、計画をし、ディスカッションを重ね、行動するという、実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えて共に活動し、プロジェクトを推進していきます。

2012年度も、本学専任教員とともに「プロジェクト科目」を担当し、学生の指導・教育の一翼を担っていただける企業・団体(地方自治体等を含む)・個人の方を募集いたします。

詳細および応募書類については、下記プロジェクト科目ホームページにてご確認ください。
たくさんのご応募をお待ちしております。

プロジェクト科目ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
 テーマ募集 <http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/boshu.php>

締切日	提出先
2011年10月7日(金) 必着	[今出川校地] 同志社大学 教務部教務課教務係 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 [京田辺校地] 同志社大学 教務事務センター京田辺学務課学務共通係 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

- プロジェクトテーマの一例(2011年度採用テーマより抜粋)
- 食育と健康(菜膳と野菜作りで、正しい食事と健康を考える)
 - 子供の成長に良い玩具の考察と企画
 - 心めくもる「絵本」に出会う～絵本ソムリエ・プロジェクト～
 - 上京区活性化プロジェクト～区民との協働で地域課題の解決を!～
 - 「平成の京街道をゆく～京阪沿線の魅力を発見・発掘・発信しよう!」
 - 祇園祭を中心に「京の心意気」を留学生と発見しよう!

記事募集のお知らせ

PBL推進支援センター通信では、同志社大学が取り組んでいるPBLの活動を中心に、他大学で展開されているPBLの事例紹介なども含め、発信していきます。実際に担当されている教職員や受講生、卒業生の皆さんからも、記事や情報を募集します。PBLについて、「こんな取り組みをしています!」「イベントを開催します!」といった記事や「〇〇大学でこんな科目があります」といった他大学の事例などの情報も是非、事務局までお寄せください。

Project
Based-
Learning

問合せ先
同志社大学PBL推進支援センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 教務課内
Tel: 075-251-4630 Fax: 075-251-3064
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp
ホームページ
<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/ppsc/>
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/>
 ブログ
<http://pbl.doshisha.ac.jp/blog/>



推進支援センター通信

Vol.4



辻本 哲宏 氏(同志社大学 生命医科学部 教授)
 「プロジェクト科目検討部会委員および科目代表者としてみた同志社大学のプロジェクト科目」

宮木 いっぺい 氏(法政大学大学院 政策創造研究科 准教授)
 「法政大学におけるPBLの取組」

活動報告

- 2011年度プロジェクト科目「学生担当者説明会」
- 2011年度「大学間合同成果報告会」
- 「大学教育学会第33回大会」
- 2011年度プロジェクト科目「春学期プロジェクト・リテラシー講習会」
- 2011年度プロジェクト科目「春学期懇談会」
- 2011年度「第1回市民公開型教職員協同講習会」
- 2011年度プロジェクト科目「春学期成果報告会」
- 「プロジェクト科目活動紹介～ブログより～」

- 卒業生からのメッセージ/三宅 鮎美さん(2009年卒)
- 山田センター長のつぶやき

2011年度プロジェクト科目秋学期追加募集のお知らせ
 2012年度プロジェクト科目公募のご案内



辻本 哲宏氏

(同志社大学 生命医科学部 教授)

「プロジェクト科目検討部会委員および 科目代表者としてみた 同志社大学のプロジェクト科目」

大学を卒業したのちに就職や就業で社会活動に参加する場合に、大学での勉学を直接的に自分の職業に生かせる人はまれです。この傾向は総合職に就いた人に顕著で、たとえ技術者・研究者として企業に就職した人であっても例外ではありません。なぜならば、その人のキャリアの中での役割は常に変化します。仕事の現場では、毎日変化するニーズに対応できる「ひと」が求められています。いつの時代でもどのような場面でも必要とされる「実践的で総合的な問題解決能力」と、それを支える「深い知識を獲得する能力」を身につけて、社会活動に積極的に参加することができる人に成長できる機会は極めて希にしか巡り会えません。

大学のカリキュラムは、新しい知識を学び、幅広い知識を獲得することに重点が置かれています。一部の学生は獲得した知識を実際に使ってみることを自発的におこないますが、多くの学生はそこで足踏みをしてしまい、知識はあるがそれを実践力に結びつけることができないでいます。社会に出ますと、就業中の実践が訓練の側面(On Job Training)を持つ場合もありますが、当然のことながら、毎日真剣勝負を迫られ、就職する人にとっても企業にとってもリスクであり負担でもあります。さらに、途中のプロセスが良くても結果を伴わないと自らの職を失う可能性があり、困難に立ち向かうチャレンジ精神や未知の物に取り組む開拓者精神を維持しながら、自ら成長することは極めて困難です。

同志社大学のプロジェクト科目は、チャレンジ精神や開拓者精神を育み自らの能力を高める学びの機会を提供します。この科目は、PBL(Project Based Learning)という教育手法を用いることによって、関連した領域の知識と見識を深めるとともに、必要な技能を自らのものにするだけでなく、その技量を高め、これらの能力を総合的に利用することによって目標を達成します。目標の達成が重要であることはいうまでもありませんが、目標達成のための諸々のプロセスが大きな教育効果を上げます。

プロジェクト科目検討部会では、プロジェクト課題の目標が明確で全期(一部の課題は半期)で実行可能であるか、シラバスが適正であるか、プロジェクト科目代表者・担当者の学生に対する姿勢は学生の自主性を育てるようになっているか、プロジェクトの評価法は適切であるか、などの点を吟味して、応募課題を採択しています。プロジェクト科目の結びとして、成果報告会をおこないます。プロジェクト科目終了後に科目代表者と担当者を交えた検討会を開催し、次年度のプロジェクト科目の運営に生かしま

す。その中で、議論される代表的な論点は次のような内容です。

Iプロジェクトの評価について

- 1プロジェクト全体の評価(成果報告書)
- 2目標達成度の評価(最終結果の評価)
- 3プロセスの評価(途中経過の評価)

IIプロジェクトの目標設定について

- 1参考事例のあるプロジェクト
- 2未解決(現在進行形)の問題に立ち向かうプロジェクト

IIIプロジェクトメンバー個人(学生)について

- 1動機付け(成果への貢献度)
- 2チームワーク、個人の伸びしろ
- 3個人の伸びしろの定量化と測定
- 4社会人基礎力の評価、客観性
- 5学生の未来の能力(潜在能力)の予測
- 6良い成功体験と良い失敗体験

プロジェクトの評価は成果報告書と成果報告会で行いますが、この科目は教育を目的としていますので、I-3のプロセスの評価(途中経過の評価)が重要になります。プロジェクトの目標設定に関しては、チャレンジ精神や開拓者精神を培うような大きな目標設定を行い、未知の事柄に積極的に取り組む姿勢を養う必要があります。また、参加学生個人がプロジェクト成果に貢献した度合いを明らかにすることで、学生の動機付けを維持し、個人プレイとチームプレイを総合的に評価することが必要です。プロジェクトを指導するに当たっては、科目代表者・担当者ともに、学生の潜在能力を予測して、学生が自己の中間目標(マイルストーン)を設定するように指導することで、学生の能力を高めることが不可欠です。また最近にわかに関心されてきた「社会人基礎力」についても、その能力を高める必要があります。

プロジェクト科目に参加した学生は、プロジェクトを遂行する上で「良い成功体験」と「良い失敗体験」を積み重ねてゆきます。これらの経験は一時の楽しい思い出や苦い経験として記憶の片隅にとどまる物ではありません。将来、仕事や生活で困難な場面や事態など未経験の事柄に対面した場合には、不安や恐怖から消極的な決断や行動をお越しがちです。しかしながら、これらを体験している人であれば、似たようなことはすでに経験済ですから、現在直面している事態を正確に把握し、問題点を分析して、適切な解決策を立案し、爾々と実行することができるはずで

法政大学地域研究センターは、「地域」の様々な問題を研究、解決することを目的とした、学部横断的な教員スタッフから構成される研究センターです。その事業の一つとして平成17年度から、学生が地域貢献をしながら、主体的に課題発見・解決能力を身に付けるための体系的な教育プログラム「社会貢献・課題解決教育」を文系学部全般から受講生を募り、学部横断型科目として実施しています。具体的には、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、現代福祉学部の学生が履修可能であり、各学部で正規科目として位置づけられ、修得単位は卒業所要単位に加算されます。

本授業は、学生が中小企業等のコンサルティング(問題解決)を実際に体験することで、社会で必要とされる様々な知識やスキルを修得することを目的としています。具体的には、上野、浅草、日本橋といった東京下町エリアの中小企業、商店街、組合、NPOなどから依頼のあった経営課題を6学部に渡る約50名の学生がチームに分かれて解決しながら、1. 課題を発見・分析できる力 2. 実践可能な提案ができる力 3. 解決策を実践できる力 4. コミュニケーションの力 5. プレゼンテーションの力 6. チームマネジメントの力を身につけます。

これまでの成果として、学生が提案したアイデアを商品化して売り出した企業もありますし、学生の提案により店舗を移転し内装をまったく変え、訪問客を2倍に増やした企業もあります。あるチームは、企業の企画会議に定期的に参加し、社員とともに広告戦略の重要媒体であるチラシのデザインを一新しました。商店街のプロモーションビデオを作成し関係者から絶賛されたチーム、産直市の企画運営に尽力し商店街の方々から表彰されたチームもあります。ネット販売の仕組みを提案して採用されたチームもあります。中には乞われてそのまま就職した学生もいます。

年度末には、すべてのクライアントの皆様やメディアの方々も含めた関係者を多数集めて、正式な提案・展示を行う報告会を実施します。この報告会は、司会進行も含め学生自身が企画運営しますが、社長や経営陣、および地域の各セクターの方々に対するプレゼンテーションと位置づけています。また、夏休みには課外プログラムとしてインターンシップや地域づくり合宿(昨年度は石川県七尾市、秋田県仙北市)を実施し年度末には現地で市長をはじめ地元の皆様の前で報告会を開催します。全国の高校生とのコラボ企画もあります。

授業の進め方としては、前期は「発見と分析」に、後期は「提案と実践」に重点を置き、プロのコンサルタント、経営者によるレクチャー、Eラーニング教材(様々な学部の予備知識のない学生がプロジェクトに必要な知識やスキルを効率良く身につけるのにきわめて有効です)による自宅学習、学生によるワークショップ、グループディスカッション、プレゼンテーション、現場でのフィールドワーク等から構成されます。

本授業には学部や学年を越えて様々な学生が参加しています。社会人や高校生とも活動をともにします。教員が学生に対してできる最大のことは、このような出来る限り多様な出会いの場をたくさん作って声をかけること、そして気づき考え行動するきっかけをつくることだと思っています。そのような「場」さえあれば、様々な壁にぶつかり試行錯誤しながらもいつの間にか学生は驚くほどたくましく成長しています。PBLの一番の良さはそこにあると日々実感しています。



宮木 いつぺい氏

(法政大学大学院 政策創造研究科 准教授)

「法政大学における PBLの取組」